

December, 2012 & January, 2013



安藤赴美子

12 & 1

神奈川県芸術プレス Vol.109

ARTISTS
PRESSES

KANAGAWA



写真・大野純一

CREATOR'S VOICE 128 ソプラノ

安藤赴美子

神奈川県民ホール
共同制作オペラ『椿姫』に主演

県立音楽堂ニューイヤー・コンサート
中国の音でお正月!

県西エリアに注目!
この冬、心温まる上質の音楽を

安藤赴美子

Fumiko Ando ソプラノ

神奈川県民ホール 共同制作オペラ『椿姫』に主演

美貌・美声に表現力も兼ね備えたソプラノとして、いま上り坂の勢いにある安藤赴美子。

2006年の『ラ・ボエーム』の澁刺としたムゼッタが二期会公演のデビューだが、

以後『椿姫』(ラ・トラヴィアータ)のヴィオレッタや『カルメン』のミカエラなどの大役を次々に射止め、

2012年3月には神奈川県民ホールの『タンホイザー』で清純なエリーザベトを歌い、高い評価を受けた。

そして同じ神奈川県民ホールで年末には

『ファンタスティック・ガラコンサート2012～華麗なるオペラ&バレエ』に出演し、

2013年3月には、待望の『椿姫』でヴィオレッタを歌う。

その悲劇のヒロインにかかる熱い想いをご本人にうかがった。

●新しい境地を拓いたエリーザベト

—国立音楽大学・大学院を修了され、新国立劇場オペラ研修所でも3年学ばれて、イタリアにも留学されましたが、2006年二期会『ラ・ボエーム』のムゼッタでデビューされました。それからの活躍は目を見張るばかりです。

あのムゼッタ役は自分にとって大きな転機になりました。ちょうどイタリア留学から帰ってきたばかりの時に、オーディションがあったので、その研修成果を聴いていただきたいという気持ちで受けたんです。

—最初はミミ役でオーディションを受けられたとか。対照的な二人ですが、ご本人のキャラクターとしてはどちらに近いですか？

どちらもできるよと先生方には言われていたのですが、とくにミミにこだわりはなかったのですが、威勢のいいムゼッタができるうちにこの役を歌うことができ嬉しかったです。キャラクターに近いのはミミ。ああいうじっと耐える女性の方に惹かれます(笑)。

—2009年は宮本亜門さん演出で、ヴィオレッタも歌われた。勢い止まりませんか。

大学・大学院と新国立劇場での研修、留学と勉強期間が長かったので、そこで蓄えた栄養をどこかで発揮したいという想いはありました。2006年に大きなチャンスをいただいてからは、走り続けてきた感じです。これをぜひやってみたいと思うものが、目の前にパッと現れることがある。それを見つけた時、さあがんばろうという意識が芽生え、熱中できる環境があったことは、恵まれていたと思います。

—今年の3月は、これまでと全く違う、ワーグナーのヒロインを歌われました。

オファーをいただいた時は、ワーグナー作品に自分がどう対応できるか悩みました。全く新しい挑戦でしたので。ただわたしの声質はピュアなりニコですので、芯の強い女性、人に頼るよりは自分から行動する強さのある女性像なら、自分にもできるんじゃないかと思いました。エリーザベトは愛する人のために命を捧げる、まさに自己犠牲する女性。こんな大変な役を歌うことができ、また一つ新しい扉を開けた感覚がありました。

●ソプラノの憧れの役ヴィオレッタ

—12月29日のガラ・コンサートでは二つの大きな



アリアを歌われます。

一つは『椿姫』のアリアですし、もう一つは蝶々さんのアリア。じつは昨年韓国で、東日本大震災のチャリティ公演として日韓伊の3国合同で『蝶々夫人』があり、蝶々さんを歌いました。着物を着て帯をしめて歌うのは大変でしたけど、最後まで歌えたのはいい経験でした。アリアを歌うということは、そのキャラクターの心情を込めて歌わないといけない。アリア1曲で前後のストーリーを彷彿とさせ、情景が思い浮かぶようなアリアが歌えたらと思っています。

—3月の『椿姫』、ヴィオレッタは2度目の挑戦ですね。

2009年のときは、思ってもみない大役だったので、自分でできるのかどうか不安と期待が半々。これはもう、やるしかない!という強い決意で舞台に臨みました。その時も思ったのですが、とにかく難しい。でもソプラノなら誰もがやりたいと願う役です。それぞれの幕で、いろいろな要素が必要です。1幕では技巧が、2幕3幕ではドラマ的なものが求められる。それにヴェルディに対応できる声をもっていないといけないし、テクニック上の訓練を受けていないと歌うことは難しい。ポローニャやパルマでは、そのヴェルディを歌うためのテクニックや基礎を学びました。

—ヴェルディの音楽では、感情表現も重要ですね。

ヴィオレッタという役は女優的な要素が必要ですね。アクターにならなければ、音楽と結びつかないと感じます。役に入り込むためには台本を読めば自然に入るので、新国立劇場で多くの演出家の方に演技について教わったことが役に立ちました。またパルマではコレベティオーアの方に歌い方のコツやドラマの作り方を教えていただいた。それらを総合して自分なりのキャラクターを創り上げるのですが、自分のなかで新しい役ができたという喜びを感じます。

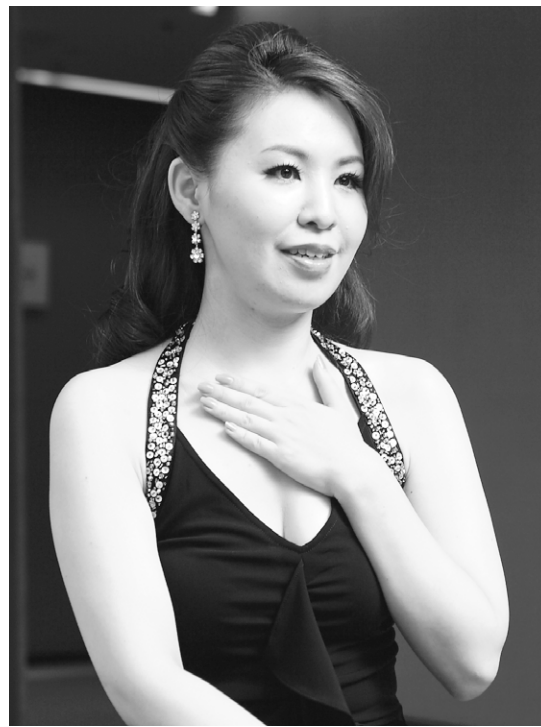
—安藤さんならではのヴィオレッタ、ここをこう聴いて欲しいというのはありますか?

1幕の最後のアリアは素晴らしい。あのアリアだけで、

ヴィオレッタってなんて素敵な女性だろうと思います。このアリアを、それまでの苦悩と享楽をどちらも彷彿とさせるように歌えたいのですが。ドラマの面では第2幕の二重唱がすごく好きなんです。台詞の一つ一つが魂を揺さぶられるような。そういう場面が一語一句、聴いてくださる方に伝わって欲しい。アルフレードとの別れを覚悟したときは、死の宣告を受けたようなもの。そこまで自分が犠牲になることができるのだから、ヴィオレッタはすごい女性だと思います。そして3幕は、すべてがいいです。亡くなる最後の場面は、天上の音楽のよう。その場面は歌うだけで、聴くだけで魂が浄化されるみたい。そんな感情が湧きあがる場面ですので、うまく歌いたいと思います。

—歌うこと、舞台に立つ喜びを感じるのはどんなときですか?

オペラ歌手って、ほんとうに素敵な職業だと思うんです。イタリアの小さなサロンで歌うチャンスがあったとき、歌って表現したことが、すぐに伝わる。それがまた自分に還ってきて力をもらっていい演奏ができる。音楽ってほんとに楽しいし、自分が表現することで聴いている方に何かを伝え、喜びを与えることができると実感しました。だからもっとがんばらなくちゃと、歌うたびに、舞台に立つたびに思うんです。



安藤赴美子(ソプラノ)
Fumiko Ando

北海道出身。国立音楽大学声楽学科卒業、同大学院声楽専攻(オペラ)修了。

新国立劇場オペラ研修所第3期生修了。文化庁派遣芸術家在外派遣員として渡伊。パオラ・モリナーリ、セルジョ・ベルトッキの各氏等に師事。『ラ・ボエーム』ムゼッタで二期会オペラ・デビュー後、宮本亜門演出『ラ・トラヴィアータ』ヴィオレッタ、佐渡裕プロデュース『カルメン』ミカエラ等で品格ある歌唱を聴かせ、新国立劇場『魔笛』、『ルサルカ』に出演。神奈川・びわ湖『タンホイザー』エリーザベットの真摯な表現とスケール感のある歌唱が絶賛を博した。N響「第九」をはじめコンサートでも活躍。NHK名曲アルバム等でも好評を得ている。二期会会員

取材・文 石戸谷結子
写真 大野純一

ファンタスティック・ガラコンサート2012 華麗なるオペラ&バレエ

12月29日(土)15:00開演
神奈川県民ホール大ホール
指揮:松尾葉子 司会・バリトン:宮本益光
出演:安藤赴美子(ソプラノ) 望月哲也(テノール)
鈴木大介(ギター) 上野水香・高岸直樹(バレエ)
管弦楽:神奈川フィルハーモニー管弦楽団
\$7,000円~\$3,000円 他

神奈川県民ホール・びわ湖ホール・東京二期会 神奈川フィルハーモニー管弦楽団・京都市交響楽団 共同制作公演 ヴェルディ作曲 歌劇『椿姫』

2013年3月23日(土)・24日(日)各日14:00開演
神奈川県民ホール大ホール
指揮:沼尻竜典 演出:アルフォンソ・アントニオツィ
出演(23日/24日):砂川涼子/安藤赴美子(ヴィオレッタ)
福井敬/フェルナンド・ボルターリ(アルフレード)
黒田博/上江隼人(ジェルモン) 他
合唱:びわ湖ホール声楽アンサンブル 二期会合唱団
管弦楽:神奈川フィルハーモニー管弦楽団
\$15,000円~\$3,000円 他

インターネット予約(24時間対応)

URL <http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

チケットかながわ ☎045-662-8866(10時~18時)

COLUMN 今月の小コラム

安藤赴美子さんにQ&A

—札幌のご出身とうかがいました。横浜の第一印象はいかがでしたか?

すごくお洒落な街だなと思いました。港町ならではの異国情緒を保ちつつ、少しレトロな感じがあるのも素敵です。北海道時代は小樽にもよく出かけましたが、同じ港町の雰囲気に近いのを感じます。

—横浜でよくいらっしゃる場所がありましたら。

今年3月の『タンホイザー』では、稽古が終わるたび、出演者の仲間たちと中華街に行きました。誰が声をかけるわけでもなく、自然とみな足の

そちらに向かい、たっぷりおいしいものをお腹に入れて帰途に着く、というのが日課でした。いくつかお薦めの店を教えてくださいましたので、また食べに行きたいと思っています。

公演中はコンディションを保つことが第一で、あちこち歩きまわるゆとりがありませんでしたので、いつかゆっくり横浜の街を散歩してみたいですね。

そしてなによりも、海に見える素敵なロビーのある神奈川県民ホールでふたたび歌うことができることを、とても嬉しく思います。

県立音楽堂ニューイヤー・コンサート 中国の音でお正月!



写真:森日出夫

神奈川県立音楽堂、2013年の幕開けは、
二胡の第一人者、姜建華を迎えての
「中国の音でお正月!」。

2012年「日本の音」でニューイヤー・
コンサートを飾った音楽堂の
シリーズ第二弾となる。

中国のお正月にまつわる伝統音楽と
現代作曲家の作品で、
華やかに新年の門出を祝福する。

日本に在住していたこともある姜さんに、
公演への抱負をうかがった。

中国人の溢れるパワーを音楽で

中華街の春節でもおなじみのように、中国では1月下旬～2月の旧正月を祝う。毎年暦によって異なり、2013年は2月10日となる(5ページコラム参照)。

「中国の人たちのお正月にかける熱意は、“命をかけている”と言ってもいいほどです。1年がうまくいきますように、という願いを込めて、準備にお金と時間をかけます。そして1カ月ほどの休みをとって里帰りし、家族と一緒に旧正月を過ごします。

日本から中国に戻って5年経ちますが、以前との変化でびっくりしたのは、みなが花火をするようになったことです。日本の夏の打ち上げ花火とは違って、個人で花火を買って、公園や広場で上げるのです。花火にかかるお金たるや大変なもので、それだけにひと月分の給料を使ってしまうほど。大晦日の夕方から元旦にかけて、あまりに多くの人が花火を上げるので、カウントダウンの頃には話が聞こえなくなってしまうような賑わいになります。

花火の音の迫力に、私は中国人の溢れるパワーを感じます。そして、このパワーを音楽でみなさんにお伝えしたいと思っています。今回のニューイヤー・コンサートは実際の旧正月より早めになりますが、お目出たいことを先にお祝いするのは、いいことですよ。

曲目には、中国版『春の海』とも言える正月音楽の定番『花好月圓』や広東の正月音楽『彩雲追月』、京胡で演奏される京劇音楽『夜深沈』や中国の現代作曲家の作品が予定されている。姜さんの名前を国際的なものにした名曲『二泉映月』も披露される。中国琵琶、笛子、揚琴、打楽器やピアノの共演者を中国から迎え、ソロから合奏まで多彩なプログラムだ。また、宮城道雄の『春の海』を、日本の箏との共演で奏でるスペシャル・コーナーも用意されている。

「二胡には、ゆったりとした癒しの音楽というイメージがあると思いますが、それだけでなく、リズムカルで速いパッセージも弾くことのできる楽器であることを知っていただきたいと思って、バラエティに富んだ作品を選んで



写真:森日出夫

姜建華 ジャン・ジェンホワ (二胡)

中国・上海生まれ。
10歳の時叔父から二胡を学び、1974年北京中央音楽学院に入学。指揮者・小澤征爾が中国訪問の際に演奏を評価し、タンゲルウッド音楽祭、ボストン交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等で共演。サントリーホールのかげろし公演のほか、王子ホール、カザルスホールのオープニング演奏会などに招かれる。内外のオーケストラとの共演のほか、レコーディングも多数。二胡の新しい境地を披露し、高度なテクニックと深い芸術性の両面が高い評価を得ている。2003年第17回日本ゴールドディスク大賞特別賞を受賞。現在、北京中央音楽学院の教授を務める。

県立音楽堂 公演のご案内

音楽堂ニューイヤー・コンサート ～中国の音でお正月!

2013年1月19日(土)14:00開演 神奈川県立音楽堂
全席指定 一般4,500円 特別ペア券(おふたりで)8,000円 学生(24歳以下)2,000円

■出演

姜建華(二胡) 楊宝元(中国琵琶) 王明君(笛子) 郭敏(揚琴) 孟曉亮(打楽器) ほか
ゲスト:西陽子(箏)

■プログラム

任光、黄胎鈞「花好月圓」(合奏)/広東音楽「彩雲追月」(合奏)/劉天華「空山鳥語」(二胡)/
華彦鈞「二泉映月」(二胡)/劉文金「雪山魂塑」(二胡・ピアノ)/京劇音楽「夜深沈」(京胡)
古曲:楊大鈞編曲「十面埋伏」(琵琶)/李航濤「洪河の春」(揚琴)/宮城道雄「春の海」(二胡・箏) ほか

主催:神奈川県立音楽堂(指定管理者:公益財団法人神奈川県立芸術文化財団)

■チケット

チケットかながわ ☎045-662-8866(10時～18時)
インターネット予約 URL <http://www.kanagawa-ongakudo.com/>

いるところ。中国の現代作曲家が二胡のために作曲した芸術性の高い作品も、この機会にぜひ紹介したいと思っていますし、日本の箏との共演も楽しみです。また横浜には華僑がたくさん暮らしていますが、彼らの多くはもともと広東省の出身なので、『ふるさとの音』を懐かしんでもらえるように、広東のお正月音楽もプログラムに入れます」

二胡の可能性を広げるために

二胡の天才少女として、10代のときから海外での演奏活動を行っていた姜さん。北京中央音楽学院在学中に、中国を訪れた指揮者の小澤征爾氏に才能を見出されて、ボストン交響楽団など欧米の一流オーケストラとの共演を果たしたエピソードはよく知られている。

「小澤先生との出会いは、二胡にとって革命でした。二胡という楽器に新しい道を拓いてくださいました。本当に感謝しています」

しかし、姜さん自身の苦労は並大抵なものではなかった。「大きなチャンスをいただいて嬉しく思う反面、二胡という楽器に欠けているもの、自分の能力の至らなさを痛感する日々でした。二胡には、西洋楽器に比べて音域・音量の面で足りない部分が多くあります。また、室内楽やオーケストラなど、人と合わせることを前提とした楽器ではないので、ピッチや音程を他の人と合わせることを習ったことすらなかったのです。二胡の楽譜は数字で記されたもので、それまで五線譜を読んだこともありませんでしたから、その訓練も必要でした。出来ないことばかりでしたが、一歩ずつ勉強していきました」

二胡にはギターのようなフレットがなく、さらに棹と弦が離れていて弦の張りが緩いため、指はふにゃふにゃの感覚で弦を押さえることになる。音楽堂の客席からご覧いただくと、いかにこの楽器で正確な音程を生み出すのが困難であるか、お分かりいただけるのではないだろうか。姜さんの苦労があつてこそ、二胡の奏法が開発され、新しい可能性が拓かれたと言えるだろう。

「西洋楽器の技術を吸収したりして、楽器の構造がよくなってきたことも幸運でした。二胡のために書かれた新しい作品も増えて、これからもっと楽器が進化していくことを願っています」

公演では、二胡よりオクターブ上の音域をもつ京胡の演奏で、京劇の音楽も披露される。

「中国の悠久の歴史、中国人のパワー、そして現代に生まれた新しい中国音楽、すべてを味わっていただけるような、盛りだくさんのニューイヤー・コンサートにしたいと思います」

二胡の豊かな音色、微妙なニュアンスまで伝える“木のホール”ならではの音楽堂の音響で、たっぷり中国の響きを楽しみたい。

※中国の獅子舞も登場する予定。

2013年の旧正月は2月10日。節分も立春も過ぎた頃の「旧正月」は、ちょっと変な感じもしますが、お正月が二度来たようで得たような気分にもなります。中国では旧正月を「春節」と呼び、里帰りをして家族とのんびり過ごす休暇期間になります。日本語で「シュンセツ」と言うと、ちょっと固めのイメージかもしれませんが、中国語で「チュンチエ」と発音すると、春先の小鳥のさえずりのような響きがあります。

ちなみに、中秋の名月に戴く「月餅」も、「ゲッペイ」ではなくて「ユエピン」と発音すると、なにやら秋の風情が漂ってきます。言葉の響きは不思議ですね。

米寿を迎えた私の父は、中国黒竜江省のハルビンで生まれました。日本の東北の人たちと同じように、寒さに強く辛抱強い、がっしりした体つきの東北人です。子どもの頃の旧正月の様子を思い出してもらいましたら、それは、とても素朴で微笑ましい光景でした。大晦日の朝から、一家をあけての餃子作りが始まります。数軒の農家で、一匹の豚を分け合ってミンチを作り、酢漬けの白菜を細かく刻んだものと混ぜて具にして、手作りの餃子の皮に包むのだそうです。数百個の餃子を家族全員で作ると、木の箱に入れて屋外に置きます。なにせ、中国東北部の冬は、零下数十度の世界ですから、天然の冷凍庫となるわけです。大晦日の夜は、盛大な爆竹の音とともに、大釜の熱いお湯で茹で上げた餃子と酒とおしゃべりで、ひとびとの年越しが始まるのだとか。大人たちが、親戚の子どもたちにお年玉をあげる習慣は、日本と同じです。ハルビンで商売をしていた父の家族も、旧正月になると田舎の親戚を訪ねて泊まり、連日、お祝いをしたそうです。

私の父は3歳で母親を、16歳で父親を亡くしましたから、そうした華やいだ思い出は、甘酸っぱいお母さんの匂いと、思春期に別れたきりのお父さんの記憶とともにあるのかもしれませんが。父親を亡くす直前に、旧満州国国費留学生として、来日した

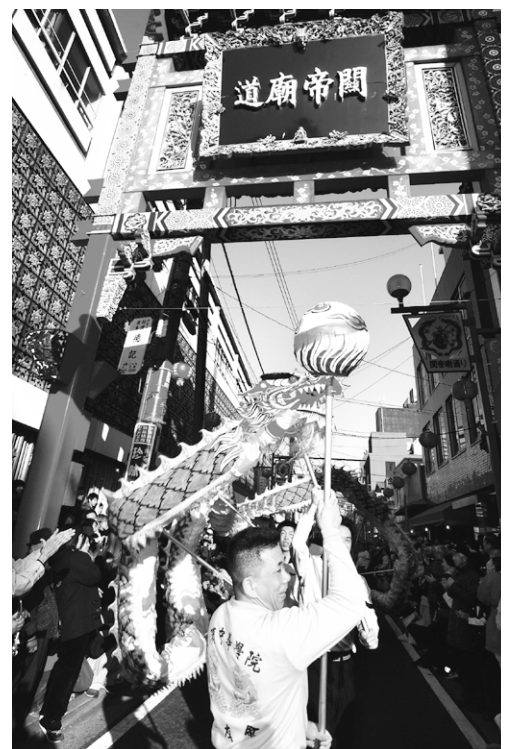
父は、戦争を挟んでさまざまな時代の渦を乗り越えながら、この国で努力をして生きてきました。大晦日の爆竹は除夜の鐘に、餃子はおせち料理に、中国酒は日本酒に変わりましたが、日本で自分の家族をつくり、この国に住むひとりとして頑張ってきました。神奈川県には横浜を中心として、多くの華僑や華人が暮らしています。「旧正月」の頃になると、故郷を想い、大陸の家族を想うひとたちも多くなることでしょう。

劇団四季の『李香蘭』というミュージカルのなかに、こんな歌があります。「中国と日本、日本と中国。ふたつの国を愛してほしい、黒い髪、黒い瞳」。

私はこの歌が好きです。

「私の旧正月」は父の国を想い、出会うことの叶わなかった中国の祖母に想いを馳せるお正月。

二胡の音色を楽しんだ後は、餃子を食べに、中華街へ繰り出しますか……。



春節を祝う横浜中華街 撮影:森日出夫

神奈川県民ホールからのお知らせ

来館者2,500万人達成!

1975年に開館した神奈川県民ホールが今年9月15日(土)、通算の来館者が2,500万人を突破しました。この日に世界初演されたオペラ『ハーメルンの笛吹き男』を親子で鑑賞しに来館されたお客様に、館長から記念品が贈呈されました。



共同制作オペラ『タンホイザー』が受賞

今年の3月に上演されたびわ湖ホール他との共同制作オペラ『タンホイザー』が、三菱UFJ信託芸術文化財団より、2011年度の助成公演の中で最も芸術性が高いと認められ「第20回三菱UFJ信託音楽賞」を受賞しました。

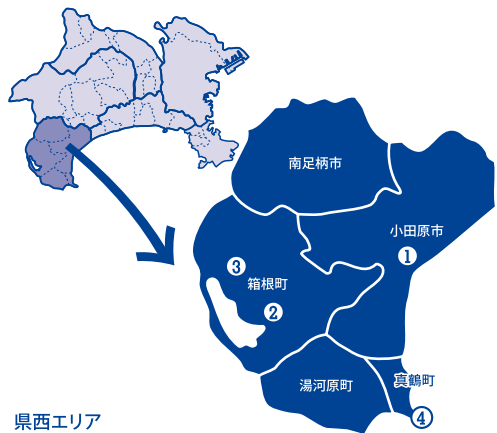


©青柳聡

県西エリアに注目!

神奈川が誇る温泉を有するこのエリアは、秋から冬にかけて、特に人気のあるスポットです。

山と海、両方の豊かな自然に恵まれ、歴史探訪や食の楽しみも満喫できます。春を告げる梅林の開花まであと一息です。



県西エリア



芦ノ湖と富士山 写真提供:箱根町企画観光部観光課
*事前に各施設にお問合せのうえ、お出かけください。

① 県立 生命の星・地球博物館

「生命の星・地球」の誕生から現在までの46億年にわたる地球の歴史をたどる常設展に加えて、12月15日(土)～2013年2月24日(日)は企画展「博物館の標本工房」を開催する。
開館時間:9:00～16:30(入館は16:00まで) 休館日:月曜日(祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月3日、1月8日
企画展は無料。常設展は別途観覧料あり。
お問合せ: ☎0465-21-1515

② 成川美術館

箱根・芦ノ湖畔に立ち、現代日本画を中心に4,000点以上のコレクションを所蔵。12月11日(火)まで企画展「文明を辿る旅～平山郁夫を中心に～」を開催中。さらに12月12日(水)～2013年3月27日(水)は「現代日本画の巨匠が描く中国」を開催。
開館時間:9:00～17:00 無休
入館料:一般1,200円、大学・高校生900円、中学・小学生600円ほか
お問合せ: ☎0460-83-6828

③ ポーラ美術館

ポーラ創業家二代目の鈴木常司が40数年かけて収集した総数約9500点におよぶコレクションを有する。現在は、10周年記念展・コレクター鈴木常司「美へのまなざし」第II期「モネとポーラ美術館の絵画」を開催中(～2013年2月26日(火)まで)。
開館時間:9:00～17:00(入館は16:30まで)
無休(展示替えのため休館日あり)
入館料:大人1,800円、大学・高校生1,300円、中学・小学生700円(土曜日無料)ほか
お問合せ: ☎0460-84-2111

④ 真鶴町立 中川一政美術館

洋画家・中川一政の作品から、平成24年度はテーマ別に4回の展示を行っている。現在は「第3回:素描の世界」を開催中(～2013年1月15日(火)まで)。続いて2013年1月17日(木)～3月20日(水)は「第4回:陶芸の世界」が行われる。
開館時間:9:30～16:30(入館は16:00まで)
休館日:第1・第3水曜日(祝日の場合は翌日)、12月28日～31日
観覧料:大人600円、高校生以下350円
お問合せ: ☎0465-68-1128

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

第九特別演奏会・小田原公演

12月15日(土)15:00開演 小田原市民会館
指揮:金聖響
出演:高橋薫子 鳥木弥生 中鉢聡 堀内康雄
神奈川フィル合唱団
ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱付」
\$5,000円 A4,000円 B3,000円 他

第286回定期演奏会

2013年1月25日(金)19:00開演 横浜みなとみらいホール
指揮:下野竜也 トランペット:三澤徹
ハイドン/トランペット協奏曲
ブラームス(シェーンベルク)/ピアノ四重奏曲第1番 他
\$6,000円 A4,500円 B3,000円 他
お問合せ:神奈川フィル・チケットサービス
☎045-226-5107(平日10:00～18:00)
<http://www.kanaphil.or.jp/>

県立神奈川近代文学館

「生誕100年 福田恆存資料展」

今年生誕100年を迎えた、文芸評論家・劇作家の福田恆存。関連書籍の刊行や各所でのシンポジウムの開催、戯曲の上演などが行われ、その鋭い批評精神に注目が集まっています。ご遺族から当館に寄贈された資料を中心に、その足跡を紹介します。
11月23日(金・祝)～2013年2月24日(日)
※月曜休館(12月24日、1月14日、2月11日は開館)、及び12月28日～1月4日、1月7日～1月11日は休館
一般250円 65歳以上・20歳未満・学生150円
高校生100円 中学生以下無料
横浜市中区山手町110
(みなとみらい線「元町・中華街駅」徒歩8分)
☎045-622-6666 <http://www.kanabun.or.jp/>

神奈川県民局くらし文化部文化課

響け、オーケストラ～未来への旅立ち～

神奈川フィル存続のための、大規模ブルーダル基金コンサートの第2弾。神奈川・横浜の音楽家が集い、スペシャル・オーケストラを編成します。
2013年1月8日(火)19:00開演
会場:パシフィコ横浜 国立大ホール
指揮:宮川彬良、金聖響
ヴァイオリン:山根一仁、毛利文香
管弦楽:神奈川フィルハーモニー管弦楽団 など
第1部:宮川ワールドへようこそ!
第2部:未来の大ソリスト登場!
第3部:ベートーヴェン「第九」より第4楽章
\$6,000円 A5,000円 学生1,000円
お問合せ:神奈川フィル・チケットサービス
☎045-226-5107(平日10:00～18:00)

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員

愛知株式会社
株式会社アクトエンジニアリング
株式会社浅岡装飾
株式会社朝日工業社横浜支店
アサヒビル株式会社
株式会社アサヒファシリテイズ
学校法人岩崎学園
株式会社ヴォートル
株式会社NHKアート
株式会社オーチャー
株式会社勝烈庵
公益財団法人神奈川県結核予防会
神奈川県信用保証協会
神奈川県民共済生活協同組合

神奈川県民共済生活協同組合
株式会社神奈川孔文社
株式会社神奈川保健事業社
神谷コーポレーション株式会社
カヤバシステム マシナリー株式会社
川本工業株式会社
かをり商事株式会社
株式会社共栄社
株式会社キョウエイ装備
株式会社合同通信
香山壽夫建築研究所
コトブキケーティング株式会社
株式会社さか美
株式会社ジェイエムアンドカンパニー
株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局
財団法人シルクセンター国際貿易観光会館

鈴廣かまぼこ株式会社
生活協同組合コブカナガワ
生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコブ
生活クラブ生活協同組合
株式会社清光社
株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
月島機械株式会社
株式会社テレビ神奈川
株式会社東急エージェンシー
東工株式会社
東神工芸株式会社
ナイス株式会社
奈良建設株式会社
株式会社日建設計
日産自動車株式会社
日生工株式会社

株式会社野毛印刷社
パナソニック ESエンジニアリング株式会社
パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社
株式会社日立システムズ
平安堂薬局
株式会社ホテル、ニューグランド
丸茂電機株式会社
三沢電機株式会社
森平舞台機構株式会社
ヤマハサウンドシステム株式会社
株式会社有隣堂
株式会社豊商會
株式会社ユニコン
株式会社横浜アーチスト
横浜エレベータ株式会社
横浜新都市センター株式会社

横濱信用金庫

株式会社横浜ステーションビル
永年個人賛助会員
川村恒明
個人賛助会員
江田真子
大島正博
金子祐子
河崎一公
黒瀬博晴
本田正男
三角京子
協賛・協力
能舞台協賛
ナイス株式会社

協力

神奈川総合設備株式会社
神奈川トヨタ自動車株式会社
崎陽軒
コカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社
鈴廣かまぼこ株式会社
株式会社東芝 首都圏南支社
株式会社野毛印刷社
野村證券株式会社横浜支店
野村證券株式会社横浜支店
野村證券株式会社横浜支店
三菱地所株式会社
(匿名:1社、2名)

(2012年10月18日現在)

賛助会員募集のご案内 公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員の制度を設立し、広くみなさまのお力添えをいただいております。お問合せ:公益財団法人神奈川芸術文化財団 広報営業課 ☎045-633-6520

この冬、心温まる上質の音楽を。

2012年もいよいよ年の瀬が近づいてきました。

神奈川県民ホールでは、寒い冬、心の中からじんわり温まるコンサートをご用意しています。

小ホールの親密な空間で、オルガンやチェンバロのぬくもりある音楽を、
 どうぞゆっくりとお楽しみください。

パイプオルガン・クリスマスコンサート2012 ～聖夜にみる夢～

日本をはじめ世界で活躍する二人の若手オルガニスト、夢の共演。

華麗な連弾をお聴き逃しなく!

パイプオルガンの響きがクリスマスの休日を彩ります。

12月22日(土) 15:00開演 神奈川県民ホール小ホール

全席指定 一般3,500円 ペア6,300円(一般2枚) 学生2,500円(24歳以下)

オルガン: 徳岡めぐみ、ジャン=フィリップ・メルカールト

曲目: M.ラヴェル/マ・メール・ロワ(眠りの森の美女のパヴァーヌ～親指小僧～パゴダの女王レドロネット～美女と野獣の対話～妖精の園)

P.I.チャイコフスキー/くるみ割り人形(小序曲、金平糖の踊り)

O.メシアン/主の降誕より 第9曲「神は我らのうちに」 ほか



徳岡めぐみ



ジャン=フィリップ・メルカールト



©青柳聡

第85回舞台芸術講座 チェンバロの魅力ーはじかれた弦の美しさー

“弦をはじいて発音する鍵盤楽器”「チェンバロ」。

楽器のもつ様々な魅力を、演奏とおしゃべりで味わっていただくレクチャー&コンサート。

美しい音の宝石箱を、ぜひ開けてみてください。

2013年1月12日(土) 13:00開演 神奈川県民ホール小ホール

全席指定 一般2,000円 学生1,500円(24歳以下)

チェンバロ・お話: 大塚直哉(東京藝術大学准教授)

☆レクチャー&コンサート

曲目: L.ケープラン/組曲 ハ長調

J.S.バッハ/イタリア協奏曲 BWV971

W.A.モーツァルト/きらきら星変奏曲

現代のチェンバロ作品 ほか

☆Q&Aコーナーとチェンバロ見学も予定



大塚直哉 ©R.Hotta



関連企画「チェンバロ体験・公開レッスン」2013年1月12日(土) 15:30～17:30(予定)

※13:00開演の本講座のチケットで無料聴講できます。レッスン聴講のみは500円。

お問合せ: 神奈川県民ホール事業制作第一課 ☎045-633-3686

チケットの
お求めは

インターネットチケット予約(24時間受付)
<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

チケットかながわ 045-662-8866 (電話10:00～18:00)

(県民ホール窓口10:00～18:00 / 芸術劇場窓口10:00～18:00 / 音楽堂窓口13:00～17:00月休)



神奈川県民ホールは、
 地域社会に貢献する活動の
 一環として「かながわ水源の森林づくり」に
 企業参加しています。

神奈川県民ホールは、水源かん養機能の高い森林づくりを目指して神奈川県が進める「かながわ水源の森林づくり」事業に、民間パートナー企業として参加協力しています。プリウスの販売台数に応じた寄付に加えて、プリウスのオーナーの皆様と一緒に、森林にふれるための「プリウス森林(しんぼく)会」を発足。神奈川県西部に「プリウス森林会の森」を設け、植樹や自然観察会などを行っています。



神奈川トヨタ

神奈川トヨタお客様相談センター
 ☎0120-212119
<http://www.kanagawatoyota.com>

横浜・山下町周辺のアート、コンサート、イベント情報ピックアップ

① 横浜美術館



歌川国芳(一勇斎)『近江の国の勇將(兼)天保2-3年頃横大判、多色木版 ※前期のみの展示』

はじまりは国芳—江戸スピリットのゆくえ
 開催中～2013年1月14日(月・祝) 同美術館100本目の記念すべき展覧会。
 江戸の浮世絵師、歌川国芳をはじめとして、国芳の作風がどのように受け継がれ、新たな展開を見せたか、江戸末期から昭和初期の作品・資料を通して探る。
 開館時間: 10:00～18:00(入館は17:30まで) ※会期中展示替えあり。
 休館: 木曜日、12月29日～1月3日
 観覧料: 一般1,200円、大学・高校生800円、中学生400円、小学生以下無料
 お問い合わせ: ☎045-221-0300

② 横浜開港資料館



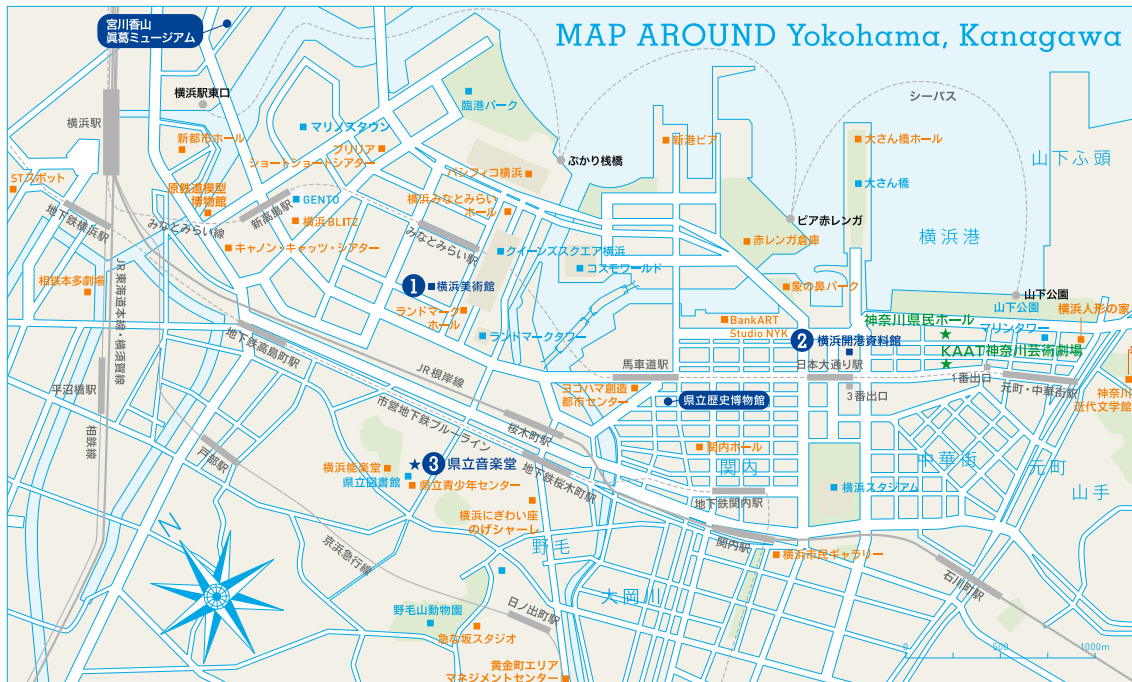
企画展「事業を興せ!—近代ヨコハマ起業家列伝」
 開催中～2013年1月27日(日)

幕末開港をきっかけに国内第一の貿易港となった横浜。その急速な発展には、積極的に事業を興した起業家たちの存在があった。そのなかで資料によって語ることでできる人々を紹介する。
 開館時間: 9:30～17:00(入館は16:30まで)
 休館: 月曜日(祝日の場合は翌日)、12月28日～1月3日
 入館料 一般200円、小中学生100円 お問い合わせ: ☎045-201-2100

③ 神奈川県立音楽堂



音楽堂建築見学会 vol.3 ※ミニコンサート付
 12月5日(水) 15:00開演(14:00開場後の45分間限定で自由見学可)
 《建築史家/建築探偵》藤森照信氏をナビゲーターに、戦後モダニズム建築の祖、前川國男設計の県立音楽堂の魅力を再発見していくシリーズの3回目。
 対談ゲスト: 京都工芸繊維大学大学院教授 石田潤一郎
 出演: 神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席チェリスト 山本裕康 ほか
 料金: 全席指定 1,500円(定員400名)
 チケット: ☎045-662-8866(チケットかながわ)



新・森さんぽ4

森日出夫さん撮影の写真でめぐる横浜歴史散策

眞葛焼 (まくずやき)

横浜で生まれたやきものがあるのをご存じですか? 眞葛焼は、1871(明治4)年、横浜の太田村(現在の横浜市南区)に、京都・眞葛ヶ原出身の陶工、初代・宮川香山が輸出向けの陶磁器を製作するために窯を築いたことから始まりました。

眞葛焼に立体的に表現された鷹や鼠、蟹、昆虫などの生物や草花の姿は、「高浮彫」とよばれ、あたかも本物のように生き生きと花瓶や壺を彩っています。また香山は、釉薬の研究によって「釉下彩」の技法を日本でいち早く完成させた陶芸家の一人でもあり、鮮やかな発色や美しいグラデーションも得意としていました。その高い技術力と芸術性は、パリ万国博覧会など、国内外の博覧会で輝かしい受賞を重ねました。

その後、二代、三代と受け継がれましたが、1945(昭和20)年の横浜大空襲により窯が壊滅的な被害を受け、眞葛焼はその歴史を閉じることになりました。「幻のやきもの」となった優美な姿から、知られざる横浜の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

監修: 宮川香山 眞葛ミュージアム
 館長 山本博士

※眞葛焼は県立歴史博物館でも見ることができます。



眞葛焼の古写真(ランタンスライド) 明治時代



初代宮川香山作「崖ニ鷹大花瓶」 山本博士蔵 宮川香山 眞葛ミュージアム寄託

★眞葛ミュージアムから読者プレゼント★

1. 眞葛ミュージアム入場ペアチケット 計5組様
2. 『世界に愛されたやきもの 初代宮川香山作品集』 山本博士編著 3名様

[お申込み]住所・氏名・電話番号、上記「1」か「2」を明記のうえ、下記宛てはがきでお申込みください。
 〒221-0052 横浜市神奈川区栄町6-1 宮川香山 眞葛ミュージアム
 神奈川芸術プレス係(Tel: 045-534-6853)
 ※応募の個人情報等は発送の目的以外に使用しません。

県内のアート情報はここで探そう!

<http://www.kanagawa-at.info/>
 「かな@」で県内のアート情報を検索できます。



Kame
 KANAGAWA members

登録無料!メルマガ定期配信

うまし、あたたし、おもしろし 鈴廣 かまぼこの里

かまぼこや干物、スイーツなどの鈴なり市場や
 海山の幸が美味しいレストラン、かまぼこ博物館など
 買・食・遊を楽しむ「かまぼこの里」へ。



鈴なり市場



かまぼこ博物館



えれんな ごっそ
 千世楼 そば 美蔵

◆アクセス 箱根登山鉄道 風祭駅すぐ

◆駐車場完備

◆神奈川県小田原市風祭245

◆電話 0465-24-3141(代)

◆www.kamaboko.com

◆すずひろ

検索

